

BIファーマシストアワード2012 受賞結果報告

2012年3月11日、日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社が主催する「BIファーマシストアワード2012」の最終選考会および各賞の発表、表彰式が東京国際フォーラムにて執り行われた。そのグランプリ、準グランプリ受賞作品の概要をご紹介します。



本アワードに寄せられた39件の応募の中から最終選考に残ったのは10件。うち、2件が災害を取り上げたテーマだったほか、オープニングテーマにEXILEの“Rising Sun”を使用するなど、要所に震災に対する配慮がされ、途中ちょうど丸一年を迎えた東日本大震災に黙祷をささげる場面もあった。

今回の募集テーマは「薬剤師による医療連携の実践」。最終選考の結果、グランプリにはひくま薬局管理薬剤師 篠崎幸喜氏、準グランプリには山口大学大学院教授 医学部附属病院薬剤部長 古川裕之氏、マミー薬局管理薬剤師 小川きよみ氏の2名が選出された。

グランプリを受賞した篠崎幸喜氏の『携帯型心電計を用いた薬局薬剤師によるQT延長薬のリスク管理』は、薬局で心電図検査を行い、心臓の状態を確認することで監査や服薬指導に活かすとともに、疑義照会や紹介などによって他職種と情報を共有してQT延長薬による致死性の不整脈Torsade de Pointes (TdP) 発現のプレアポイド^注につなげること、そして薬剤性QT延長の知見の蓄積を行うことを目的とした活動報告だった。

検査には携帯心電計リード・マイハートPlus(写真)を使用。携帯型心電計と診療所などで行う12誘導心



写真：篠崎幸喜氏提供

電図を比較したところ、両QTcはよく一致した。検査対象はTdP発現の危険因子（QT延長薬服用、相互作用薬服用、女性、高齢など）を多数持つ患者（来局患者948名中5名が該当）および希望者である。

薬局での心電図検査は、所要時間2分程度。患者(31例)の検査に対する反応は良好であった。また対象患者の1人(80歳、女性、ドネペジル・アトルバスタチン・ベニジピン服用)にQT延長を認めたため、医師に情報(QT延長、相互作用)を提供したところ、医師は処方薬をベニジピンからアムロジピンに変更。結果対象患者のQTcは正常値まで有意に短縮された。以上により、薬局での心電図検査は有意義かつ実践可能であると篠崎幸喜氏は締めくくった。

注) 薬剤師が薬物療法に直接関与し、薬学的患者ケアを実践して患者の不利益(副作用、相互作用、治療効果不十分など)を回避あるいは軽減した事例のこと

準グランプリの古川裕之氏は『ハイリスク薬と新薬に焦点を当てた薬-薬連携による副作用シグナル検出システムの構築』というテーマで、患者からの副作用シグナルを検出するため「副作用シグナル確認シート」(図1)、「副作用シグナル記録表」を用いて副作用を発見し、必要に応じて保険薬局から、山口大学医学部附属病院DIセンター、主治医へと報告するシステムを発表した。

古川裕之氏は、「ドラッグラグ解消のため、新薬の承認までの期間が短縮されている。一方、日本人データの不足から承認時に全例調査などが義務付けられる新薬が増加し、市販後の使用成績調査の重要性が増している。副作用を可能な限り早期に発見し患者の安全を確保するため、地域の保険薬局と協力して患者の自覚症状から副作用シグナルを検出し、必要に応じて処方医に伝達するシステムの構築を試みた」と話す。



図1: 古川裕之氏提供



副作用シグナルを効率的に検出するためには、患者自身が気付くことのできる具体的な症状の有無を確認の方が効果的であると考え、患者の自覚症状を8項目に分類して理解しやすいようにイラストを加えた「副作用シグナル確認シート」、記録用として「副作用シグナル記録表」を作成し、それを基とした薬-薬連携システムを作り上げた。同システムでは2011年4月より運用を開始して以来、定期的に保険薬局と意見交換会を実施している。運用開始後8ヵ月で報告を受けた789件中、処方医に連絡を行ったのは74件であり、処方医から感謝の言葉が届くなど、高い評価を受けている。保険薬局からの要望を受けて「副作用シグナル記録表」の修正を行うなど、今もシステムの改善を続けているという。

同じく準グランプリを獲得したのは小川きよみ氏の『COPD (慢性閉塞性肺疾患) の早期発見と受診勧奨～医療連携及び禁煙指導も含めて～』であった。

タバコ病ともいわれるCOPDの死亡者数は、2010年には16,293名に上り、死因の第9位に位置した。推定患者数は約500万人ともいわれるが、治療中の患者はその5%に過ぎないのが現状で、理解や認知度も低い。



図2: 小川きよみ氏提供



西淀川薬剤師会では、地域の薬局薬店の店頭で肺年齢を測ることで、①COPDの正しい知識の普及、②禁煙などのCOPDの予防と危険因子の除去、③COPDの早期発見、早期治療につなげる活動をはじめている。

まずポスターやリーフレットを利用し、COPDが疑われる人には正しい情報を提供する。喫煙者には症状の有無にかかわらず禁煙を勧め、禁煙外来の受診勧告やOTCでのサポートを実施。並行して簡易型スパイロメーターである「ハイ・チェッカー」を用いて肺機能検査を行い、肺機能異常の可能性も調べた。継続的な検査を行えるよう、ハイ・チェッカーとマウスピースは地域の薬局薬店すべてに配布している。測定結果や喫煙歴などをハイ・チェッカーの検査表と確認表(図2)に記録し、本人・薬局・薬剤師会で共有するため、個人の状況やハイ・チェッカーの結果などを鑑みて診療を勧めることなどが可能だという。

小川きよみ氏は「薬剤師が個々のデータを集めることは患者の疾病発見などにももちろん重要だが、今回のように地域の薬剤師会全体で取り組むことにより、社会へのアピール力も強くなり、社会貢献にもつながる」と語った。

BIファーマシストアワードとは

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社が創設した「BIファーマシストアワード」は、日々の薬剤師業務を通じた医薬品の適正使用や薬物治療に貢献する優れた取り組みを表彰するため、2010年4月に創設された賞である。同社には医師を対象とした医学賞「ベルツ賞」があり、薬剤師版があれば薬剤師の支援ができるのではないかという願いから誕生した。最終選考に残った受賞者には、賞金と薬剤師の調剤器具である乳鉢と乳棒が特殊加工によりモザイクされたクリスタルの天使像が贈られる。



クレデンシヤル

Credentials 医療の場で幅広く活躍する薬剤師のために

June
2012/No.45

[特集]

痛みの メカニズム

[連載]

専門医+エキスパートに聞く
よりよい服薬指導のための基礎知識 vol.28

片頭痛

ここに注目!
知っているようで知らない疾患のトリセツ file_027

ぎっくり腰

今月のKEY WORD

医療イノベーション

今さら聞けない薬剤師のギモン vol.8

画像検査の基本

[企業DI]

アステラス製薬株式会社

●レストレスレッグス症候群治療剤
「レグナイト錠300mg」が製造販売承認を取得しました

久光製薬株式会社

●モーラステープ20mg、モーラステープL40mgの
光接触皮膚炎について

6

1万円分の
商品券が当たる

読者アンケート
実施中! ▶p.46



詳しくは、上記QRコードで
サイトにアクセス

薬局の皆さままでご覧ください